

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
346	じもんだい 時事問題	2	3	総合学科 工業科	選択

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標

新聞・TVニュース・情報番組・インターネット情報の活用により、情報収集能力・分析力を養う。また、パワーポイント等のPCソフトを使用して、発表用資料を作成し、集団内で個人・グループで発表することで、構成力・表現力とコミュニケーション能力を育成することを目指す。

- (1) 情報を効率よく的確に整理し、さまざまな画像・文字・図表などを使用して資料化できる力を養う。できごとの経緯や状況だけでなく、特質や問題点を客観的・多角的に把握し、提示できる能力を養う。
- (2) できごとの内容・背景・影響を考察し、価値判断できる。効果的に表現し発表できる力を養う。
- (3) 自分の興味のある事件や出来事を探し、主体的・計画的に情報収集する力を身につける。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・見手を意識したパワーポイントを作成している。 ・自分の発表や他者の発表の内容を理解している。
② 思考・判断・表現	・情報を効率よく整理し、表面上の問題だけでなく、その背景にあるものや問題の特質や問題点を多面的・多角的に判断している。 ・各種問題を効果的に表現し、発表している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・さまざまな時事問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

評価の方法

- ・発表内容に関する小テスト
- ・発表内容（パワーポイントの構成・発表態度・表現力・振り返りなど）
- ・他者の発表を聞く姿勢

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	自由課題	使用予定教科書（「図解でわかる時事重要テーマ100」（日経HR編集部）の該当ページ	身近な問題や現在話題になっている事件・できごとに関心を持ち、主体的に調べることができる。			○
5	自由課題		調べたことを考察し、価値判断をした上で、発表用のシートやパワーポイントにまとめ、他者の前で発表することができる。	○	○	
6	防災問題		日本や世界で起こった災害について経緯だけでなく、特質・対策・影響についても調べてまとめることができる。	○		○
7	防災問題		自分で調べた災害について、考察・判断を加えてパワーポイントにまとめ発表することができる。		○	○
8						
9	国際問題	使用予定教科書（「図解でわかる時事重要テーマ100」（日経HR編集部）の該当ページ	世界のできごとと日本の関係、外交や紛争、国際大会などについて、概要や特質、影響まで調べることができる。	○		○
10	国際問題		自分で調べた国際問題について、考察・判断を加えてパワーポイントにまとめ発表することができる。		○	
11	社会問題		日本の社会問題について、テーマを見つけて調べ、問題の背景や特質まで考察することができる。	○	○	
12	社会問題		社会問題についてまとめ、提言も含めて発表することができる。			○
1	自由課題		日本および世界のできごと・人物から自分がもっとも注目するテーマを選び、自分の見解をまとめることができる。	○		○
2	自由課題・まとめ		調べたテーマをパワーポイントにまとめ、その特質や状況だけでなく影響や問題点についても発表することができる。		○	
3						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
340 347	数学 I 演習	2	3	総合学科 工業科	系列選択 I 自由選択

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標
<p>数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)数学 I の内容について基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、基礎を確実に定着し、数学的に表現・処理する技能を身につけるようにする。</p> <p>(2)問題演習をすることによって、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を育てる。</p> <p>(3)数学的活動を通して、他者の思考を理解し、自身の思考を深め、他者に的確に伝える能力を育成する。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につける。
② 思考・判断・表現	各単元において、事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決すると同時に事象を数学的にとらえて論理的に表現する力をつける。
③ 主体的に学習に取り組む態度	各単元の考え方に興味を持ち、それらを事象の考察に活用しようとする事ができる。
評価の方法	定期考査及び授業における取り組み、課題への取り組み等を評価する。

学習計画および評価の方法						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	数と式	数の計算 整式 乗法公式	整式の整理や乗法、因数分解の基礎的な知識を身に付けている。			○
5		因数分解 無理数	実数の性質について理解し、基礎的な知識を身に付けている。		○	
6		1次方程式 連立方程式	方程式の基礎的な知識を身に付け、応用問題にも対応できる。		○	
7		2次方程式	基礎的な2次方程式の問題が解ける。	○		
8						
9	数と式	2次方程式 1次不等式・2次不等式	2次方程式の問題が解け、不等式の問題が解ける。	○		
10	集合と命題 2次関数	命題と論理 1次関数・2次関数	命題と論理、関数の基礎的な性質を理解し、問題を解ける。		○	
11	図形と計量	三角比 三角比の相互関係 正弦定理・余弦定理	三角比の基礎的な知識を身に付け、三角形の解法に応用できる。			○
12	場合の数と確率	集合 場合の数	集合、場合の数の基礎的な知識を身に付けている。	○		
1		順列 組合せ 確率	順列組合せの基礎的な知識を身に付けている。 確率の基本的な問題が解ける。	○		
2						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
348	すうがく 数学Ⅰ・Ⅱ・A・B演習 えんしゅう	2	3	総合学科 工業科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等
総合学科の「数学Ⅲ」選択者は必ず履修すること。また、「数学Ⅲ」選択者以外は履修不可。

科目の目標
<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	各単元における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基本的な知識を身につけている。また、事象を数学的に解釈し、数学的に処理する技能を身につけている。
② 思考・判断・表現	各単元において、事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を統合的・発展的に考察する力が身につけている。また、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	各単元において、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度が身につけている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価の方法	定期考査及び授業における取り組み、課題への取り組みを総合的に評価する。

学習計画							
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			
				①	②	③	
4	数と式	式の計算・式の値	基本的な展開・因数分解ができる。	○			
		1次不等式	1次不等式について、その解き方を理解している。	○			
		命題と集合	命題の真偽について論理的に考察できる。		○		
5	2次関数	関数とグラフと最大・最小	平方完成ができる。また2次関数の最大・最小値を求めることができる。	○			
		2次方程式、2次不等式	2次不等式・方程式の解について、グラフを用いて考察できる。		○		
		2次関数のグラフとx軸の共有点	2次関数のグラフとx軸の共有点の関係に関心を持ち、考察した結果を、放物線と直線の共有点の関係を考察する際にも活用している。			○	
6	図形と計量	三角比の基本	三角比の相互関係の式を理解している。	○			
		三角比と図形	余弦定理・正弦定理を理解している。 日常・社会における具体的な場面の問題を解くことで、三角比の有用性を認識しようとしている。 空間図形に含まれる三角形に着目し、図形の問題を考察できる。	○		○	
		データの分析	データにおける基本的な用語を理解し、その値を算出できる。 相関係数を調べ、複数の数量の関係性を考察できる。	○		○	
7	場合の数と確率	場合の数、順列	順列の意味を理解し、順列の総数を求めることができる。 順列の考え方を利用して様々な場合の数を求めようとしている。	○		○	
		組合せ	組合せと順列を対比し、その関係性を考察できる。		○		
		確率	場合の数をもとに、事象の確率を算出することができる。 反復試行や条件付き確率の意味を理解できる。	○			
7	図形の性質	図形の性質	チェバ・メネラウスの定理や方べきの定理を理解している。 正多面体について頂点の数、辺の数と面の数の関係や見え方を考察できる。	○		○	
		整数の性質	約数と倍数	整数の基本的概念を理解している。	○		
		不定方程式	不定方程式の特殊解とユークリッドの互除法の関係性を考察できる。		○		
		整数の種々の問題	様々な整数の問題に触れ、積極的に整数の考え方を日常や社会に活かそうとしている。			○	

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	複素数と方程式	複素数とその計算	複素数の基本的な性質について理解している。	○		
		2次方程式の理論	2次方程式の解の種類と判別式の関係性を考察できる。		○	
		剰余の定理・因数定理	剰余の定理、因数定理を理解できる。	○		
		高次方程式	高次方程式を解くことができる。 3次方程式の解と係数の関係について、2次方程式の解と係数の関係を調べる方法を活用し、考察することができる。	○		○
10	三角関数	三角関数	三角関数の定義などの基本的な内容を理解している。 複雑な三角関数の最大・最小値を求めるにあたり、既習の関数の最大・最小値を求める方法を活用し、その関係性を考察できる。	○		○
	指数関数・対数関数	指数関数・対数関数	指数関数・対数関数の性質を理解している。	○		
			指数関数・対数関数の関係性を考察できる。 日常・社会における具体的な場面の問題を解くにあたり、積極的に指数・対数の考え方を活用しようとしている。		○	○
11	微分法・積分法	導関数と接線	微分を活用し、接線の式を求めることができる。	○		
		関数の値の変化	様々な問題を解決するため、微分を用いた最大・最小値の算出方法を積極的に活用している。			○
		微分法の応用	様々な問題について、すでに学んだ微分や、その特徴を活用して、考察することができる。		○	
		不定積分・定積分	定積分・不定積分の意味を理解し、それらを求めることができる。 微分と積分の関係性について考察できる。	○		○
		面積	定積分を利用し、直線や曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。	○		
12	ベクトル	ベクトル	ベクトルの基本的な知識を理解している。	○		
		ベクトルと平面図形	ベクトルが動く領域について、既存の知識を活用し、考察できる。		○	
ベクトルと空間図形		ベクトルを活用して空間図形の特徴や性質を考察できる。		○		
1	数列	等差数列・等比数列	数列についての基本的な知識を理解している。 数列の和の最大・最小値について、元となっている数列から考察することができる。	○		○
		種々の数列	様々な数列の問題に触れることで、積極的に数列の考え方を日常や社会に活かそうとしている。			○
		漸化式と数列	漸化式について理解し、その数列の一般項を求めることができる。 漸化式の考えを図形の考察に応用することができる。	○		○
		数学的帰納法、数列の応用	数学的帰納法について理解し、基本的な証明ができる。	○		
			数列の応用問題について、既習の知識を活用して考察できる。		○	
2	数学Ⅰ・Aのまとめ	数学Ⅰ・Aのまとめ	数学Ⅰ・Aで学んだ基本的な知識を習得している。 数学Ⅰ・Aで学んだ知識を活用し、問題を考察することができる。 ここまで学んだ数学Ⅰ・Aの問題を解くことで自分の得意・不得意な分野を考えるとともに、今後の学習につなげようとしている。	○		○
		数学Ⅱ・Bのまとめ	数学Ⅱ・Bで学んだ基本的な知識を習得している。	○		
			数学Ⅱ・Bで学んだ知識を活用し、問題を考察することができる。 ここまで学んだ数学Ⅱ・Bの問題を解くことで自分の得意・不得意な分野を考えるとともに、今後の学習につなげようとしている。		○	○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
320 377・381	物理	4	3	総合学科 工業科	系列選択F 類型選択D・自由選択

履修条件、選択上の留意事項等
総合学科は、2年次に「物理基礎」を必ず履修してあること。

科目の目標
物理的事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けようとする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	日常生活や社会と関連付けながら、物理の各単元の内容を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	物理の各単元の内容について、観察、実験などを通して探究し、規則性や関係性を見いだして表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物理の各単元の内容に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価の方法	小テスト、定期テストへの取り組み状況 ワークシートや振り返りシート、課題レポート、その他提出物の記述の点検、確認、分析 実験とその考察、プレゼンテーションの取組状況の確認、分析 演習への取組やグループワークへの取組状況の観察、確認、分析

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	さまざまな運動	平面内の運動	平面内を運動している物体のようすを表すのに必要な物理量のうち、変位、速度、加速度について理解する。	○		
		放物運動	水平投射・斜方投射の物体の運動を水平方向と鉛直方向に分解し、どのように成分表示されるか表現することができる。		○	
剛体のつり合い		実験を通して、剛体がつり合っているときの力の関係や力のモーメントの関係について考察する。		○		
5	力積と運動量	運動量と力積の関係について、実体験などをもとに考えることができる。			○	
		運動量の保存	直線上で物体が衝突するときに、どの物理量がどのような関係になっているか、仮説を立て、検証方法や準備を考え、実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。		○	
6	反発係数	さまざまなボールを床に落としたときのね返りようすからボールを落とす高さとはね返る高さにどのような関係があるか考えたり、表現しようとしたりしている。			○	
		得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。			○	
	円運動	等速円運動を表す量として、周期や回転数、速度、角速度について理解し、その表し方について理解している。	○			
	慣性力	円運動において、静止している場合と加速度運動している場合とで区別して、物体の運動について理解している。	○			
	単振動	単振動が等速円運動の射影であることから等速円運動を表す量と対応させて角振動数や位相を理解し、単振動の変位、速度、加速度の表し方を理解している。	○			
	さまざまな単振動	鉛直ばね振り子が単振動するときどのような力がはたらき、周期がどのように決まるかを調べるために実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、表現している。			○	
	単振動のエネルギー	単振動のエネルギーがどのように表されるかを理解している。	○			
	惑星の運動	惑星の観測資料(諸定数)から、惑星の運動に関する法則性について考察したり、表現したりしようとしている。			○	
	万有引力	万有引力の法則について理解している。	○			
	気体の性質	理想気体とはどのような気体が理解している。また、理想気体の状態方程式を使うことができる。	○			

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
7		気体分子の運動と状態方程式	気体の圧力や絶対温度、内部エネルギーを、気体分子の運動をもとにどのように考え、表すことができるか理解している。	○		
		熱力学第1法則と気体の状態変化	気体を急激に圧縮したときにどのような結果になるか熱力学第1法則から科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。			○
		熱力学第2法則と熱機関	熱力学第2法則を理解し、熱効率や可逆変化、不可逆変化との関係やさまざまな表現方法について理解している。	○		
8	波	波の表し方	正弦波を式で表す方法や位相について理解している。	○		
		波の伝わり方	2つの波源から生じた水面波が干渉するとき、任意の点について強め合う条件と弱め合う条件を説明することができる。		○	
9		音の性質	物理基礎で学習した音の性質を振り返りつつ、ここまで学習した屈折や回折、干渉が音でも見られることを理解している。	○		
		ドップラー効果	音源または観測者のどちらかのみが動く場合のドップラー効果をもとに音源と観測者の両方が動く場合のドップラー効果について考えることができる。			○
			日常生活でドップラー効果が観測できる場面や社会でどのように利用されているか調べ、そのしくみを知ろうとしている。			○
		光の伝わり方	光の性質として全反射、分散、偏光、散乱について理解している。	○		
		光の回折と干渉	2重スリットを用いた光の回折・干渉を観察し、干渉縞の間隔から波長を求めるための実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。			○
		レンズと鏡	凸レンズや凹レンズを通る光の進み方を理解し、これらのレンズによる像の向きについて理解している。	○		
		10	電気と磁気	静電気	2つの点電荷の間にはたらく静電気力についてクーロンの法則を理解し、実際に問題で利用することができる。	○
電場	電場の強さを電気力線の本数で表すことができること(ガウスの法則)の考え方について説明できる。				○	
電位	点電荷のまわりの電位や複数の点電荷のまわりの電位の表し方や求め方について説明することができる。				○	
電場の中の物体	静電誘導と箔検電器のしくみについて理解し、箔検電器に帯電体を近づけるなどの操作をしたときに箔検電器がどのように振る舞うか考えることができる。				○	
コンデンサー	コンデンサーの充放電のしくみについて理解しコンデンサーが蓄える電気量や平行板コンデンサーの電気容量について理解している。			○		
電流	物理基礎で学習した電流の大きさやオームの法則、ジュール熱、電力について、自由電子の運動の視点から説明することができる。				○	
直流電流	電池に接続した抵抗の抵抗値を変化させていったときの電池の端子電圧と回路を流れる電流の関係を調べるための実験を行い、得られた実験結果を科学的に分析、考察し、他人の実験結果や考察と比較しながら議論して深く考えようとしている。					○
磁場	磁場について理解し磁場の向きと強さの定義を理解している。			○		
電流が作る磁場	直線状の電流がつくる磁場について理解している。			○		
11				電流が磁場から受ける力	磁束密度の定義について理解し、磁束密度の大きさと磁場の強さの関係について説明することができる。	
		ローレンツ力	一様な磁場中での荷電粒子の運動のようすについて理解している。	○		
		電磁誘導	コイルを貫く磁束を変化させたとき、誘導起電力の向きと大きさを予想し、科学的に分析、考察し、議論して深く考えようとしている。			○
		自己誘導と相互誘導	自己誘導・相互誘導とはどのような現象かを理解している。	○		
12	原子	交流	RLC回路の共振現象や電気振動がどのような現象か知り、それぞれの現象の特徴を考慮することができる。		○	
		電子	陰極線の正体である電子の比電荷についてトムソンの実験による比電荷の求め方について考えることができる。		○	
		光の粒子性	光子について理解し光子による光電効果について理解している。	○		
		X線	X線が粒子性をもつことをコンプトン効果と関連付けて理解し、波長の変化について考えることができる。		○	
1	物理学が築く未来	原子と原子核	標準模型といわれる素粒子理論や宇宙の進化モデルについて知ろうとしている。			○
			先端で研究されている物理学の理論や今後発展が期待されている事例について調べたり自分のキャリアについて考えようとしている。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
349	音楽Ⅲ	2	3	総合学科 工業科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等

音楽Ⅱを履修した生徒

科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性について理解するとともに、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

(2) 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かに音楽表現を創意工夫したり音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりすることができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を磨き、音楽文化を尊重し、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表現している。
② 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知見し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

評価の方法

実技やレポートを中心に、授業態度や課題で総合的に判断して評価する。

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4 5	歌唱(日本歌曲) 創作(知識と技能)	木下牧子作曲「ロマンチストの豚」 マスカーニ作曲「間奏曲」 体を使った音でストーリーを表現しよう	歌唱に適した姿勢、呼吸法を習得し、体全体を使って歌唱することができる。 リコーダーの基礎的演奏技法を習得し、アンサンブル演奏できる。 手拍子や足踏みなどを使って少人数で演奏する曲の創作ができる。		○	
6 7	歌唱(イタリア歌曲) 創作(知識と技能)	ドナウディ作曲「かぎりなく優雅な絵姿」 「ジムノペディ第1番」 体を使った音でストーリーを表現しよう	歌唱に適した姿勢、呼吸法で発声し、イタリア語の正しい発音で歌詞の意味を理解して歌唱することができる。 ギターの基礎的演奏技法を定着させ、曲の構成や曲想を考へてアンサンブル演奏できる。 手拍子や足踏みなどを使って少人数で演奏する曲の創作ができる。		○	
9 10	歌唱(ドイツ歌曲) 器楽(鍵盤楽器) 創作(知識と技能)	シューベルト作曲「セレナード」 ピンクパンサーのテーマ ファンファーレを作ろう	歌唱に適した姿勢、呼吸法で発声し、ドイツ語の正しい発音で歌詞の意味を理解して歌唱することができる。 ピアノの基本的奏法を習得して、連弾演奏ができる。 華やかな式典音楽の創作ができる。		○	
11 12	歌唱(合唱) 器楽(鍵盤楽器) 創作(知識と技能)	中島みゆき作曲「時代」 ピンクパンサーのテーマ ファンファーレを作ろう	歌唱に適した姿勢、呼吸法で発声し、美しいハーモニーで合唱することができる。 ピアノの基本的奏法を習得して、連弾演奏ができる。 華やかな式典音楽の創作ができる。		○	
1 2	器楽(箏二重奏) 創作(知識と技能)	「オペラ座の怪人」 日本のわらべうたつづり 楽典	「オペラ座の怪人」を視聴し、舞台と音楽がどのように連携し表現されているかを理解して、ミュージカルの音楽の特徴を感じ取る。 箏の基本的奏法を習得し、日本のわらべうたの二重奏が演奏できる。 4小節の駅の発車ベルの創作		○	

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
350	美術Ⅲ	2	3	総合学科 工業科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等

美術Ⅱを履修した生徒

科目の目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中で美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を想像していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようになる。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度が身につく。

評価の方法

ア、制作作品 イ、アイデアスケッチ ウ、レポートの記述内容 エ、授業への取組等行動観察 オ、提出物の内容

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	Tシャツデザイン	デザイン	目的や条件、美しさを考え、個性を生かして表現の構成を練る。	○		
5		色彩計画	対象や事象を捉える造形的な視点について、理解を深めることができる。		○	
6		版画 シルクスクリーン	主題に合った表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すこと。			○
7	鑑賞	作家の手法 アニメーション	美術作品などの見方や感じ方を深める。			○
9	建築の構想	建物の絵画を描く	主題に応じた表現の可能性について考え、個性を生かして創造的な表現の構想を練る。		○	
10		建築模型	発想や構想したことを基に、自己の表現方法を追求し、表現の意図を効果的に表すこと。	○		
11						
12	鑑賞	建築について	生活や社会の中の美術の働きについて見方や感じ方を深める。			○
1	ポートフォリオ	ポートフォリオ制作	自己表現に合った表現方法を追求し、創造的に表現する。			○
2						○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
351	書道Ⅲ	2	2	全学科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等
選択クラス授業

科目の目標
書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に深く構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の創造的諸活動に取り組み、生涯にわたり書を楽しむ心を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、創造的に表現するための技能を身に付けるようにする。
② 思考・判断・表現	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を楽しむ心を育むとともに、感性を磨き、書の伝統と文化を尊重し、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
評価の方法	ワークシートの記入内容、作品鑑賞カードの記入内容、発表の内容、小テスト、作品、授業に取り組む姿勢などをもとに総合的に評価する。

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	漢字の書(篆書)	古典の臨書 甲骨文 金文 大篆 小篆	篆書の特徴を理解している。	○		
			古典の線質、字形や構成を生かした表現をすることができる。			◎
			書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。		○	
			書の表現及び鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。			○
5	漢字の書(隸書)	古典の臨書 「居延漢簡」	隸書の特徴を理解している。	○		
			古典の線質、字形や構成を生かした表現をすることができる。			◎
			書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。		○	
			主体的に書の表現及び鑑賞に意欲的に取り組んでいる。			○
6	漢字の書(草書)	古典の臨書 「書譜」	草書の特徴を理解している。	○		
			古典の線質、字形や構成を生かした表現をすることができる。			◎
			書を構成する要素や表現効果、風趣を感じ取り、言葉で表現することができる。		○	
			主体的に書の表現及び鑑賞に取り組んでいる。			○
7	硬筆	履歴書を書く	履歴書の用途、書き方について理解している。	○		
			書写の基礎基本を身につけ、体裁よく書くことができる。			◎

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	細字の書	熨斗紙・祝儀袋、不祝儀袋を書く	熨斗紙・祝儀袋、不祝儀袋の用途について理解している。	○		
			書写の基礎基本を身につけ、体裁よく書くことができる。		◎	
10	漢字仮名交じりの書	自我像(詩文を書く)	漢字と仮名の古典を鑑賞し、それぞれの特徴を理解している。	○		
			漢字と仮名の古典を調和させ、表現することができる。		◎	
			主体的に書の表現及び鑑賞に取り組んでいる。			○
11	仮名の書	古筆を臨書する 「関戸本古今集」 三色紙	詩のイメージに合わせて表現を工夫することができる。		◎	
			仮名の書の特徴や伝承、文化と書の内容の時代的意義について理解している。	○		
			古筆の臨書と鑑賞を通して、幅広い表現方法や技法を用い表現を創造し工夫することができる。		◎	
			個性的、創造的な表現を追求し、意欲的に取り組んでいる。			○
			古筆を鑑賞し、連綿の美、文字構成、線筆について自分の言葉で伝えることができる。			○
12	漢字の書(創作)	四字熟語を書く	書体の特徴を生かし表現することができる。	◎		
			主体的に書の表現及び鑑賞に意欲的に取り組んでいる。			○
			四字熟語の意味に合わせて表現を工夫することができる。		○	
1	漢字仮名交じりの書	新年の抱負を書く	行書・隸書の特徴を理解している。	○		
			漢字と仮名の調和させ、表現することができる。		○	
			主体的に書の表現及び鑑賞活動に取り組んでいる。			○
1	工芸	ガラスの制作	抱負のイメージに合わせて表現を工夫することができる。		◎	
			創作の手順に従い、ガラス作品を制作することができる。	○		
			書の表現及び鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。			○
			創作作品を鑑賞し合い、個性的、創造的な表現を追求することができる。			○

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
352	スペイン語	2	3	総合学科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等
・言語、スペイン、中南米の文化に興味関心を持ち、授業に積極的に取り組むことができる。

科目の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語の基礎をマスターする。</li> <li>・スペイン語を通じて、積極的にコミュニケーションを図る態度を育てる。</li> <li>・情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝える基礎的な能力を養う。</li> </ul>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	スペイン語文法と多くの単語の使い方を正確に理解し、活用することができる。
② 思考・判断・表現	リーディングとリスニングでは、スペイン語で情報や考えを正確に理解することができる。 ライティングとスピーキングでは、スペイン語で情報や考えを適切に伝達することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	スペイン語によるコミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ることができる。
評価の方法	
定期テスト、パフォーマンステスト、自己評価、課題提出	

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	parte 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本ルール、母音の発音、子音の発音</li> <li>・基本表現</li> </ul>	・スペイン語文法基礎、発音・アクセントのルール、挨拶などの基本表現を学ぶ。	○	○	○
5	parte 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>L1 ~をお願いします</li> <li>L2 ~です</li> <li>L3 ~にいます/あります</li> <li>L4 ~を持っています</li> </ul>	・定冠詞・不定冠詞、動詞 ser、動詞 estar、動詞 tener の使い方をまなぶ。	○	○	○
6	parte 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>L5 ~を食べます</li> <li>L6 ~ではありません</li> <li>L7 ~はどこですか?</li> <li>・単語をまとめて覚えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞 comer、否定文、疑問詞 donde の使い方を学ぶ。</li> <li>・住居/公共施設を表す単語を学ぶ。</li> </ul>	○	○	○
7	parte 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>L8 何/誰/どちら/いくら/どのように</li> <li>L9 ~できます</li> <li>L10 ~したいです/ください</li> </ul>	・疑問詞 (que, quien, cual, cuanto, como)、動詞 poder、動詞 querer の使い方を学ぶ。	○	○	○
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
9	parte 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>L11 ~しなければなりません</li> <li>L12 ~時です</li> <li>L13 いい天気です</li> <li>・単語をまとめて覚えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務、時刻の表現、動詞 hacer の使い方を学ぶ。</li> <li>・数/序数/小数と分数/単位を表す単語を学ぶ。</li> </ul>	○	○	○

10	parte 3	L1 この/その/あの L2 私のスーツケース L3 黄色いTシャツ L4 いすの上に	・指示形容詞 (este, ese, aquel)、所有形容詞、品質形容詞、副詞の使い方を学ぶ。	○	○	○
11	parte 3	L5 マリアと一緒に L6 彼に渡します L7 ~が好きです L8 ~という名前です	・前置詞、間接目的語、動詞 gustar、動詞 llamarse の使い方を学ぶ。	○	○	○
12	parte 3	L9 ~が痛いです L10 ~したいです/ください L11 ~しました/~したことがあります L12 ~しています	・動詞 doler、動詞 querer の使い方を学ぶ。 ・過去形/完了過去/進行形 の表現方法を学ぶ。	○	○	○
1	parte 3	L13 ~するでしょう L14 いつ~しますか? L15 ~しなさい L16 ---に~されました	・疑問詞 cuando の使い方を学ぶ。 ・未来形/命令形/受動態 の表現方法を学ぶ。	○	○	○
2						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
353	家庭基礎演習	2	3	全学科	選択

履修条件、選択上の留意事項等
総合学科・工業科の選択者

科目の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させる</li> <li>・家庭や地域の生活課題を主体的に解決を図る学習を通して、知識の深化、総合化を図る。</li> </ul>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	家庭生活の意義や役割を理解し、生活を向上するために必要な知識・技能を身につけている
② 思考・判断・表現	家庭・地域生活に課題を見出し、解決に向け創意工夫する能力を身につけている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	家庭や地域の生活について関心を持ち、主体的に実践的な態度を身につけている。

評価の方法
<p>授業・実習に意欲的に取り組み、自ら生活の課題を考え、発言する取り組みを多面的に評価する。</p> <p>作品製作やプリント、実習によって知識・技術の習得状況を判断する。また、発表、グループワークによって、思考・判断表現力について評価する。すべてを総合的に判断し、評価を行う。</p>

学習計画						
月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	人の一生と生活の自立	第1章 生涯を見通す	・自立した生活を営むためには、生涯を見通して生活課題に対応した意思決定をしていくことが重要であることを理解する。			○
5	食生活をつくる (1)	第6章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や家族に必要な食事がわかる。</li> <li>・弁当に適した調理ができる。</li> <li>・運動に適した食べ方や料理を理解する。</li> </ul>	○	○	
6	・食生活について考える ・弁当づくりの基礎 ・スポーツと栄養			○	○	
7	食生活をつくる (2)			○		
8	・食生活の文化	第6章 食生活をつくる	・地域の食文化や伝統料理、行事食について理解する。	○		
9	住生活をつくる ・快適な住まい ・安全な住生活	第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面図や住居の機能を理解し、賃貸住宅の契約等を理解する。</li> <li>・自助、共助、公助の必要性を理解し、防災に関する正しい知識や行動力を身につける。</li> </ul>	○	○	
10				○		
11	消費生活 ・自立した消費者	第9章 経済生活を営む	・社会における契約の重要性を理解し、場面や環境に配慮した消費行動ができる。			○
12	暮らしを豊かにする 手芸	第7章 衣生活をつくる	・製作を通して、基礎的・基本的な縫製技術を習得する。	○		
1	ホームプロジェクト	第10章 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践することを通して問題解決能力を身につける。</li> <li>・ホームプロジェクトの実施内容について成果の発表を行い、次の課題へ繋げる。</li> </ul>		○	
2						○
3						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
346	ちいき さんぎょう 地域と産業	2	3	総合学科 工業科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等

科目の目標

体験と製作、発表を通して地域について学習する。観光の見地、観光資源の視点から地域を分析し、この地域の産業、工芸、食文化、そして地域観光の中心である温泉などの魅力のある資源と地域の人材を最大限に活用しながら、将来、地域を考え、地域で生きていく人材を育成する。

- (1) 地域についての基本的な知識を習得する。
- (2) 地域の課題を見つけその解決策について考察する能力を養う。  
地域の産業や文化、問題点などを表現できる能力を養う。
- (3) 地域の産業や文化に対し、関心をもち意欲的に諸課題を追求する力を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	・見手を意識したパワーポイントを作成している。 ・自分の発表や他者の発表の内容を理解している。
② 思考・判断・表現	・情報を効率よく整理し、地域の産業の特徴やその理由、地域の問題点を多面的・多角的に判断している。 ・各種情報を効果的に表現し発表している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・地域活性化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

評価の方法

- ・発表内容（パワーポイントの構成・発表態度・表現力・振り返りなど）
- ・他者の発表を聞く姿勢

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	地域の産業調査		調査・統計・講話を通して地域の実態を理解することができる。	○		
5	地域活性化プロジェクトⅠ（自治体の研究）		出身地区の自治体の試みなどを研究し、その意義や背景を多面的・多角的に考察し、理解することができる。		○	
6	地域活性化プロジェクトⅡ（修善寺駅前商店街活性化計画）		伊豆市の課題を学び、それに対する自治体の施策について研究し、理解することができる。	○		○
7			フィールドワークを通して、商店街の活性化について考察、発表することができる。	○	○	○
8						
9	地域活性化プロジェクト（修善寺駅前商店街活性化計画）		アクションに向けて具体的な方策を研究する。			○
10			アクションに向けて具体的な方策を研究する。			○
11			アクションを通して自己のプランを精査する。		○	○
12			アクションを通して自己のプランを精査する。		○	○
1			アクションを通して自己のプランを精査する。		○	○
2			地域再生プロジェクト（地域企業研究）		地域の魅力的な企業を研究し、理解することができる。	○
3						

番号	科目名	単位数	学年	学科(系列・類型)	必修・選択
250 383	工業管理技術	2	2,3	工業科 総合学科	自由選択

履修条件、選択上の留意事項等

製造業（工場などでのものづくりの仕事）に就職を希望する生徒は、ぜひ受講してほしい。企業の仕組みから生産技術、品質管理、安全衛生、環境管理、経営など、製造業を営む上で、とても重要な内容を学びます。就職試験にも有利になります。

科目の目標

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業生産の管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 工業生産の管理技術について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業生産の管理技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業生産を管理する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の観点とその趣旨

① 知識・技術	工業の各分野の生産業務の適切な遂行のために、工業生産の管理技術について工業の各分野における経営事例を踏まえて理解するとともに、工業生産における様々な状況に対応できる技術を身に付けている。
② 思考・判断・表現	工業生産が社会に与える影響について責任をもち、工業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	工業生産を管理する力の向上を目指し、生産業務における管理者としての役割を自ら学ぶ態度や、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価の方法

記述の点検、確認、分析  
行動の観察、確認、分析  
(定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等を総合的に判断して評価する。)

学習計画

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	職業と産業・企業と起業	職業と産業・企業のしくみ	製造業の概要や起業について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○		
			製造業の概要や起業について自ら学び、生産の現場において実際に活用できるよう主体的かつ協働的に取り組む。			○
	工業管理技術の概要	工業管理技術の概要	工業管理技術の概要について工業生産の管理技術の意義、工業生産と経済及び工業の将来と企業の社会的な責任を踏まえて理解している。	○		
生産活動に着目して、工業管理技術に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。				○		
工業管理技術の概要について自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む。					○	
5	生産の管理と計画	生産計画と生産	生産の計画と管理について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○		
			生産の計画と管理について自ら学び、工業生産の現場において実際に活用できるよう主体的かつ協働的に取り組む。			○
6	工程管理と品質管理	工程管理	工程管理について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○		
			生産活動の進捗管理に着目して、工程管理に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善できる。		○	
			工程管理について自ら学び、生産の現場において実際に活用できるよう主体的かつ協働的に取り組む。			○
		物流	物流に関する課題を見だし、関連する技術を身に付ける。	○		
7 8 9	品質管理	品質管理	品質管理について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○		
			買い手の要求に合った品質の製品を経済的に作り出すことに着目して、品質管理に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。		○	
			品質管理について自ら学び、生産の現場において実際に活用できるよう主体的かつ協働的に取り組む。			○

月	単元 (項目)	題材 (使用教科書項目)	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点			
				①	②	③	
10	安全管理と環境管理	安全衛生管理	生産活動に起因する災害の防止に着目して、安全管理に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。		○		
			安全管理について自ら学び、生産の現場において実際に活用できるような主体的かつ協働的に取り組む。			○	
			機械設備の保守と保全について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○			
			信頼性や耐久性の高い機械設備への改善する。		○		
11		環境管理	環境の保全に着目して、環境管理に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。		○		
			環境管理について自ら学び、生産の現場において実際に活用できるような主体的かつ協働的に取り組む。			○	
12	工場の経営	人事管理	工場の人事管理について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○			
			人事に着目して、工場の経営に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。		○		
		企業会計	企業会計について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○			
			会計に着目して、工場の経営に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。		○		
		工業経営に関する法規	法規について企業における経営事例を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	○			
			法規に着目して、工場の経営に関する課題を見いだすとともに解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善する。		○		
		3		工業の経営について自ら学び、生産の現場において実際に活用できるような主体的かつ協働的に取り組む。			○